

自分が変われば、世界が変わる！

たった二行の手紙が人生を変えた感動の実話。

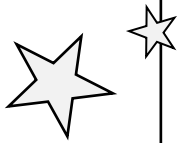
戦争中、私の夫はカリフォルニアのモジューブデザートに近い陸軍教練所に配属されていました。それで私は、夫の近くにいるために、そこへ引越していきましたが、私はそこが嫌いでした。大嫌いでした。

みじめなことと思ったら、お話になりませんでした。夫はモジューブデザートへの演習に参加を命じられたので、私は、掘っ立て小屋にたった一人で残されたのです。

サボテンの日陰でさえ華氏一二五度という厳しい暑さで、その上話し相手といったらメキシコ人とインディアンばかり。それも英語は話せないのです。絶えず風があつて、食べ物のもとより、呼吸する空気も砂、砂、砂でいっぱいでした。

私は、わが身があまりにもみじめで悲しいので、両親に手紙を書いて、どうしても我慢ができないから、思い切つて家へ帰る、こんな所にいるくらいなら監獄のほうがまだましだ、と訴えたのでした。それに対する父の返事はわずか二行の文句でした。だが、私は一生決して忘れないでしょう。それが、私の生活を一変させてしまったのですから。

二人の男が、監獄の窓から外を眺めた。
一人は泥を、ほかの一人は星を見た。



私は、この文句を何回も何回もくり返して読み、自分自身が恥ずかしくなりました。

私は現在の状態から、何か良いものを探し出そうと決心しました。星を探そうとしました。

私は、インディアンたちと友達になりました。それに対して示した彼等の反応は、私をびっくりさせました。私が彼等の編み物や焼き物に興味を示すと、彼等は、旅行者には決して売らない大事な品物をあれこれと私にプレゼントしてくれました。

私は、またサボテン、いとらん、ヨシユアの木などの面白い形を研究しました。それから、草モルモットのことを調べたり、砂漠の落日を眺めたり、何百万年もの昔、砂漠が海の底であった時、そこに残された貝殻を探したりしたのです。

一体、何が私にこの驚くべき変化をもたらしたのでしょうか。モジューブデザートは変わらない、インディアンも変わらない。

そうです。私が変わつたのです。私が心の持ち方を変えたのです。そうすることによつて、私はみじめな体験を、私の生涯の最も面白い冒険に変えたのです。

私は、私の発見した新しい世界によつて刺激され興奮させられました。私は、興奮のあまり、それを材料にして「輝く城壁」と題する小説を書きました。

私は、自分の作った監獄から、外を眺めて、ついに星を探し出す事ができたのです。

(アメリカの女性小説家 セルマ・トムソン)

※この文章を毎日読んでプラス思考ができるようになりました」と、ある講師の方から紹介していただきました。 出典：ロ・カーネギー著「道は開ける」

介護がラクになる会 <https://happykaigo>

